

なんとも始末に負えぬ私の名前：そもそも何が問題か— 信教の自由によって我々が勝手に神々を作り出したこと

Greatchain

January 6, 2025

しばらく沈黙していたのは、私への攻撃によって何も言えなくなったからではない。YouTube という知識の媒体、特に「プレアデス星人」による啓発で、この世界のあり方がすっかり変わってしまったことによって、言うべきことが、にわかに見えてきたからである。私がこのところ盛んに攻撃されているのには、わけがある。You are Out という見出しのついたのがあった。これはどういう意味かわからなかったので、オックスフォード辞典を調べると、that idea is out という用例が出てきたので、これは「お前の考えは理屈に合わない」という意味であるとわかった。また「お前はウソをついている」というのもあった。私は自分の発言で、わかり易くするための方便以外には、ウソをついたことはないので意外だった。

こうしたことを今、大枠の知識で括ることができるようになった。これは昨年2月9日の記事に書いたように、あの「エホバの証人」の事件から火がついて、YouTube 全体に百花斉放というべき、宗教、特にキリスト教に対する批判が起こり、人々が自由に論じ初めたときから始まっている。忘れていた人物がこれに参加し、特記すべきは David Wilcock が、より高い自我に覚醒することは責任が重くなるだけで、地位が高くなるのではない、という貴重な発言だった。これは現在、プレアデス星人たちが強調していることで、特に私が高く注目されているので、これを私に対する教訓として受け止めている。イエスは、自分の教えを守れとは言ったが、制度化された宗教は無視せよと教えた。

そもそも、私が “Chosen One” として神から認められるという信じ難い事件が起こったのは、何だったのか？ 私を特別に認めて下さった方の説明をよく聞くと、これは私をいわば、**気の合う男、話の通ずる協力者**として選んだだけであることがわかる。「お前が優れているとか、功績があると考えたからではない」と、はっきり言っており「お前という人間をただひたすら愛するからだ」と言っている。これはいわば学校の先生の^{えごひいき}依怙鼻贖のようなものである。愛とは合理的なものではない、非合理的なものである。ここで私の10月18日の、「黙って涙を流す神…」という記事を再読していただきたい。

すでにご承知と思うが、数か月来、私の取った行動をここで再び説明する。神は私を「選ばれた者」として特権を与えることを、守護天使と呼ばれる、神に仕える霊的存在を通じて提案された。しかし私は、それに伴って生ずる4つの難題を、すべて解消するという条件で、引き受けることにした。第一に特権的地位の辞退、そしてそこから生ずる「名声」という嫌なものは御免被る、またそれに伴う金銭的援助の拒否、そしてそれらの解決の最後の手段として、私の名前や肖像（アイデンティティ）の完全消去だった。

これは「苦肉の策」として、こうするより他はないものであった。もしこれが万一、計画通りに行われたとしたら、私自身が恥ずべき笑いものとして（嫉妬は当然の反応）苦しむだけでなく、神自身が笑いものとなって権威を失うのは、目に見えている。

私は普通の人間で苦行僧ではないから、自分の手で自分を消すという行為は、一種の自殺であり悩んだ。また世間に対しては不便をかけ、いつまでも名前抜きの「あなた」で通させるのは、心苦しくもある。しかし、それより仕方がなかった。

だが、私が自分の名を隠すのには、もう一つの理由がある。私は現に、こんな名誉に対し、名乗るほどの者ではないという恥ずかしさがある。私はそのため、自分のあり方を「触媒」と呼んで説明したところ、これが一般にも使われた。「触媒」、つまり自分は働かず、わが身を他者に貸すだけで大きな働きをさせる者、という意味である。

これは案外、正確な比喻だった。私は特に何もしていないのに、私の存在の仕方や言葉は人に訴え、これをキッカケとして、古い宗教から、全く新しい宗教（世界解釈）への一大革命のような運動になったと思われる。（ただこれも、ユーチューブから得た大体の評価にすぎない）。神の世界に関わる人間の間では、何が起こるか全くわからない。

ところで、そもそも人が神と呼ぶのは、どういう存在なのだろうか？ 「チャネラー」と呼ばれる特異能力の人々が、キャッチする高次元の存在は、すべて「神」であろう。チャネリングによって質問すると、“I am Ra”と言って現れ、質問に答える高次元存在がいる。これもやはり、古代エジプトの神 Ra であろう。プレアデス星人が、古代日本のすばらしい遺産だとして絶賛する神社仏閣も、すべて「神」の住処であろう。神はほとんど無数に存在し、どの神が最も正しい、また最も偉い神だとは言えないだろう。

キリスト教についても、信者数が世界一だと言って、キリスト教会がすべて「神の住まう」教会だとはいえない。しかし、その中でただ一つだけ、その物的・霊的・エネルギー波動の中心が、そこにしかなく、地球のような絶妙な創造物が、そこからしか生まれないと断定できるような、条件をもつものを**仮定**することはできる。それこそ我々の求める、究極の「神のエネルギー場」であろう。

そしてそこにもう一つ、真の神の条件を加えるならば、それは「愛」と「光」という価値をもつものでなければならない。旧約聖書では、神とは何かという質問に対して「我はありてあるもの」（存在しているもの）と答えているが、単に存在することは価値ではない。愛や光の反対概念が、悪や悪魔として存在することを、我々は現在、学習中だからである。我々人間は絶えず学習する存在である。我々は神についても愛についても、永遠に学習していかなければならない。そして神は我々を裏切ることはない。これほどうれしい、これほど心の弾む朗報はないではないか!!